



# 中学部 数学科 一題材の実践事例

題材名：『附特ツアーズ』で、時刻を読んだり、状況に応じて立式や計算をしたりして、旅行プランを立てよう

授業者：神崎 稔正

学習指導要領の段階と内容

中学部2段階 数と計算	
知・技	キ(ア)⑦数量の関係を式に表したり、式と図を関連付けたりすること。 ①□などを用いて数量の関係を式に表すことができることを知ること。 ②□などに数を当てはめて調べること。
思・判・表	キ(イ)⑦数量の関係に着目し、事柄や関係を式や図を用いて簡潔に表したり、式と図を関連付けて式を読んだりすること。
学 び	数量に進んで関わり、数学的に表現・処理するとともに、数学で学んだことよさを理解し、そのことを生活や学習に活用しようとする態度を養う。

題材目標

知・技	『附特ツアーズ』で、旅費を見積もる時、加法と減法との関係や乗法と除法との関係がわかり、加えられる数もしくは加える数を□で表した加法で立式し、□に入る答えを減法で求めたり、被乗数もしくは乗数を□で表した乗法で立式し、□に入る答えを除法で求めたりして、見積表に記入する
思・判・表	旅行プランを立てる時、文章が示す状況を考え、求める数値から立式や計算の仕方を判断し、四則計算を用いたり、必要に応じて□を用いて計算したりして、交通費や宿泊費、買い物代、アクティビティ代などの費用や、活動に関わる時刻や時間を旅行プランの空欄に記入する
学 び	条件に応じて、加法と減法、乗法と除法の関係や□を適切に用いて計算する

教材と仕組み

教材名：『附特ツアーズ』

時刻を読む、●分後の時刻を求めるなどして、旅行のスケジュールをついたり、旅行費用などを計算したりすることで、旅行プランが完成する仕組み



観点別評価

知・技	文章問題を読み、 $200 + \square = 500$ などと□を用いて加法や乗法で立式し、「全部が500だから、わかっている200を引くと□は300になります」などと言って、□に入る答えを求めることができた。
思・判・表	文章問題に応じて、求める数量に下線を引いた後に、お土産1箱あたりのお菓子の数量を求める問題で、 $7(\text{箱}) \times \square(\text{個}) = 35(\text{個})$ などと、四則計算や□を用いた計算をして答えを求めることができた。
学 び	条件に応じて、加法と減法、乗法と除法の関係や□を適切に用いて計算する姿が見られた。

関連する授業づくりの手順

知識及び技能の指導の計画を立てる

思考力・判断力・表現力等の指導の計画を立てる

教材の仕組みを決定する

学びに向かう力・人間性等を涵養するための計画を立てる

R研で毎時間の授業の評価・改善

**ポイント** □が示す意味と用い方に気づくための計画と働きかけの工夫

この問題はこれまで学習したことで解決できる！

どうやって、解決するのだろう

手がかりとなる線分図の提示と思考の過程に沿った発問

急に□が出てきた。何だ、これは…

文章問題と対応した□を用いた式の提示と発問

□はわからない数のことを表しているぞ！

求めたい数に□を当てはめると計算できるぞ！

和を求める問題 → 加える数を求める問題 → 加える数が□で示された問題

**ポイント** めあてを理解して活動し、学びを具体的に振り返るための本時の展開の工夫

自分で本時のめあてを決める

②友だちと共有

③教師の認めと意味づけ

①課題に取り組む

④わかったことの蓄積

めあてに対する具体的な自己評価と共有

導入 → 展開 → 発展 → 終末

考察

○自分で毎時間のめあてを決めることで、これまで振り返りで「計算をした」「頑張った」などと話していた生徒が“□の意味や用い方を理解すること”というめあてに対して、「わからない数を□にすると式ができた」など、指導内容に対して具体的に振り返る姿が見られた。また、その時間にわかったことや気づいたことを学習プリントに蓄積していくことで、次時以降の課題を解決するためのツールとして使用する場面が多く見られたことから、自分でめあてを決めることの重要性を感じた。

△グループの生徒に指導する領域や内容が複数あったが、教材の仕組みを工夫することで、同一教材で指導することができた。一方で、生徒同士の学び合いを広げていくためにも、授業展開や生徒の出方をより具体的に想定し、領域が異なる生徒同士で活動して、そのよさを実感できる場面を設定しておく必要があった。

